

山口情報芸術センター(YCAM) press release
公立文化施設 共同プロジェクト

りゅーとぴあレジデンシャル・ダンス・カンパニー

Noism⁰4

2004 autumn-winter tour

black ice [新作]

演出・振付／金森穰 (りゅーとぴあ舞踊部門芸術監督)
美術・映像／高嶺格
衣裳／堂本教子
出演／Noism04

日時：2004年11月13日(土) 13:30 開場 14:00 開演
会場：山口情報芸術センター スタジオ A

主催／財団法人山口市文化振興財団
企画・製作／新潟市民芸術文化会館・山口情報芸術センター・宮崎県立芸術劇場
高知県立美術館・可見市文化創造センター・まつもと市民芸術館
制作／りゅーとぴあ 新潟市民芸術文化会館(幹事館)

新しいダンスシーンを全国へ

2004年4月、地方都市新潟のりゅーとぴあで、全国的に類をみない新しい試みがスタートした。それは、海外での活動経験が豊富で世界的振付家モーリス・ベジャール、イリ・キリアンも認める演出家・振付家・ダンサーである**金森穰**を舞踊部門の芸術監督に向かえて始動した、公共劇場専属のレジデンシャル・ダンス・カンパニー「Noism04」である。

地方都市にあるりゅーとぴあを活動拠点とし、恵まれた環境を得た11人のダンサーで構成する「Noism04」は、全国の公立館やダンス界をはじめマスコミから高い注目度と大きな期待を集め、4月からのクリエイションを経て6月に新潟と東京でファースト作品「SHIKAKU」を上演した。この作品は、実験的かつ挑戦的な試みで、舞台セットや演出・構成で、空間と観客との関係に緊密と解放をうまく与え、飽きさせることなく最後まで観客の視線をダンサー集中させた。そして、延べ3,000人の観客に与えた大きな成果は、また「Noism04」の公演を是非観たいという思いと期待感を持たせたことだった。そして、その思いと期待に応じて、今新しいダンスシーンが全国に発信される。

ダンス共同製作プロジェクト

日本の現状として、コンテンポラリーダンスは一般的に集客が難しいと言われ、全国的にも限られた自治体でしか取り組まれていない。演劇などは公立館がネットワークを結び共同で作品を立ち上げる動きが数年前から活発になり、助成制度も活用し経費面での軽減が図られるなかで新たな展開ができています。

今回の共同製作プロジェクトは、ダンスに興味をもつ公立館が主体となり、オリジナリティに富んだコンテンポラリー・ダンス作品を製作し、各地域に新たな刺激をもたらす思いを抱いた取り組みである。ダンス、それもコンテンポラリーという分野に視線が向けられたことは、新しいダンスシーンの流れを予感させるものである。

さらに、この企画は、金森穰が、自身選出したダンサーと共に、満たされた創作過程・公演スケジュールをもって創出する作品の公演を実現するものである。このことは、出来上がった作品をそのまま劇場に納めるのではなく、各劇場に作品がフィットするようフレキシブルに変化させる過程を各劇場に存在させることができる。また、作品として映像効果を取り入れることなど各劇場のもつ施設機能や特徴を創作過程に生かすことが可能となる。作品の創出を通して、各地域でのダンスマーケットの環境をつくりだすとともにダンス事業をはじめ、他の分野における事業のネットワークも構築し、各地域のこれからの事業振興を図ることにも意義あるプロジェクトである。

金森穰とNoism04のメンバーが6月のファースト公演「SHIKAKU」で膨張させた期待感に応えるべく、第二弾、共同製作プロジェクト・Noism04「black ice」の全国展開がいよいよスタートする。

作品コンセプト 金森 穰

在るもの、無いもの。無いものを在るものに変える事が創作ではない。

在るものから無いものを生み出し、無いものが在ると言う真実と向き合う事、それこそが創作だと思う。そうして創り出された無かったものこそ、人間が人間として在るがゆえの力、想像力の創り出す虚構である。そして観客は誰しも自分の中の虚構により舞台上の虚構を認識し、同時に創りあげて行く。それこそが舞台鑑賞の、強いて言えば芸術鑑賞の醍醐味であると思う。今回僕らの創りあげる虚構では、目の前に実存する虚構が虚構である事を明らかにし、それによって観客の中に生まれた虚構を事実化することである。

舞台上に何もなくなったその時、記憶と言う虚構が観客を押し寄せる。

共同製作について

共同製作プロジェクトの一番のキーポイントは、製作前から既に創られる新作が、幾つもの異なる劇場(地域)で上演されると言う事が決まっている所にあると思います。

ヨーロッパでのカンパニー生活で、そう言った状況にはダンサーとしても振付家としても慣れていますが、一般的に注意されるのは装置を小さくする、装置を無くすなど、最初からどんな場所でも“上演できる”ものを創ることに要点がおかれている。作品のクオリティー以前に“上演できる”と言う所に重点が置かれています。だから作品の器=装置などは変わらない。どうにか上演すると言う形になりがちです。今回僕はここに注目してみたいと思います。装置と言うものが動きの無い、固体であると言う考えを捨て、生きた装置、すなわち状況や場所によって形を変えられる、生きた装置を創ってみたい。そうする事で、様々な形の異なる劇場全てにおいて、そのキャパシティの MAX をだした作品が上演できるという、ある種当然そうであるべきことが出来ると思います。僕は形にはまる事を嫌います。それを実現するにはきっと、こちら側が柔軟である事が求められるでしょう。その柔軟性を、装置と言うある形的イメージを持つものから変える事で、形にはまるのではなく、その都度違った形(劇場)にこちら側がフィットする、そしてなおベストなものを上演できるということが可能になるはずで。そして装置が形を変えると、ダンサーが存在する世界が形を変えることにもなります。ですから当然、振付&ダンサーもフレキシブルである事が求められるでしょう。

そのため、これを実現するには幾つかの課題があります。

その一つは、どの劇場においても劇場時間を最大限に取るという時間が必要なことです。例えば3日も上演日の前にあれば、まずはそこに形(装置)を作ることができ、そこで生まれた形(装置)に、動きを合わせていく事が出来るからです。それがなければ装置は生きていても、今度は振付が死んでしまう=ダンサーが死んでしまうからです。

そしてもう一つの課題は、演出上の自由です。それこそがコンセプトに記した“虚構”です。劇場を変える度に生まれ変わる虚構、虚構であるがゆえに変化し、生まれ変わり、そして消えてゆく。そして作品と言う虚構が消え去った後、舞台と言う空間を創り出す劇場という実存が虚構化する時、新たな事実が生まれると信じています。

りゅーとぴあ舞踊部門芸術監督 金森 穰

Professional Dancer = Key(キー)

僕等が信じる芸術の一つ、ダンスとは“在る”と言うことを前面に押し出した芸術である。なぜならそれは人が生まれてから死ぬまでそこに“自分”と一緒に“在り”続ける体というものを使った芸術だからである。そして僕等のツールであり、存在の証である体を使った芸術だからこそ、ダンサーとはダンス作品において尊重されるものである。が、ここ日本において今現在様々な公演を見てどうだろう。作品を創る事に重点をおき、いいものを創る事に重点をおき、商業的に成功する事に重点をおき、お客さんに重点をおき、ものは創られ消費されてゆく。そしてダンスは趣味の延長で、決して職業ではない。趣味の延長であることは構わない。そこに自由な情熱があれば。でも職業として成り立つ時に捧げられる時間と情熱を僕は知っている。そう言ったものを創る事、ここ日本に創り出す事が最大のキーである。“キーを創る事でドアは開けられて、新しい場所へ人は進んで行く”この日本のダンス界に必要なのは、場所(劇場)でも、ドア(作品)でもない。キー(プロダンサー)である。

DANCE

「芸術作品は、そのものなりの仕方、存在するものの存在を開示する」(マルティン・ハイデガー)

ダンスとは、あなたにとってなんですか？とよく聞かれる。そんな時、僕の頭をよぎるのは、まさにこのハイデガーの言葉である。そして思う。ダンス、それは人間の存在の開示である。では人間の存在とは何か・・・

体。それは僕等が生まれてから死ぬまで、僕等が使い、一緒に存在するツール(道具)である。ある年齢までは成長し、ある年齢からは退化して行く。訓練すれば鍛えられ、ほうって置けば弱くなる。行動と結果が密接に繋がっている道具である。だが我々人間は、一つの人生の中で、何処までその“可能性”を追求しているか。勿論全ての人々がそれを追求する事は無い。だがその存在の可能性を追及する人、それがダンサーであると僕は思う。当然個々の体には、生まれ持った違いが生じる。いかなる努力でもその差を完全には埋め尽くせない。だがしかし、そこにある道具でも、使いこなせなければ、道具は道具としての機能を果たしきれない。そこで頭脳が必要となる。頭脳。これも我々が生まれてから死ぬまで僕等と一緒に存在する、人間の大事な要素の一つである。ダンス=体と思っている人が多いようであるが、体だけで見せるなら、整形手術万歳。体を動かすのは、紛れも無い頭脳である。しかし脳も筋肉である。使わなければ退化して、使えば結果をもたらしてくれる。体よりも長い間“自分”と一緒に成長して行く。脳も道具である。そして道具ではなく、人間の存在に必要不可欠な“もの”、それが感情である。ダンス作品に感情を道具として使うと、とても「恐ろしい」結果になる。感情とは使う物ではなく、生まれるものである。そして全ては結果ではなく、可能性である。今度ダンスを観に行ったら、体、頭脳、感情の可能性を感じてみませんか？舞台の上に。そしてあなたの中に。僕等人間の存在の可能性を。

Noism

[ism]それは主義である。

1-[No・ism]とは主義を持たない”主義”である。

そして言い換えれば、全ての主義を肯定するともとれる。

ダンススタイルをとって見ても、今現在様々なダンススタイルがある。

その中で「コンテンポラリーダンス」と言うスタイルが近代生まれた。

しかし、コンテンポラリー=現代的&同時代的というスタイルはどのようなスタイルなのか。常に流れ、変化し続ける現代と言う時間。同時代と言われる「今」この時。

過去と言う歴史の中で生まれた様々なスタイルを自由な感覚でとらえ、学び、取り入れ、守り、変化させる。そんな現代において、主義を持たないと言う、ある種消極的に聞こえるこの”主義”こそ、全てを尊重し、学び、共に生きようと言う 21 世紀のグローバリズム主義だと思う。そしてそんなグローバルな芸術、それこそ総合芸術と呼ばれる、舞台芸術のあり方だと思う。そしてそこから生まれるであろう”新主義”、それこそ僕らが求める未来であると思う。

2-[No・ism]とは能主義ともとれる。

上記で主義を持たないといっておきながら・・・

しかしこの能舞台＝日本の大切な古典芸能の中にある、抽象性、芸術性を見つめる事は、日本人として、舞台芸術に携わるものの当然のあり方だと思う。

プロフィール

金森穰

演出振付家。りゅーとびあ新潟市民芸術文化会館・舞踊部門及び Noism04 芸術監督。17歳で渡欧。ルードラ・ベジャール・ローザンヌにて、モーリス・ベジャールらに師事。ネザーランド・ダンス・シアター、リヨン・オペラ座バレエ、ヨーテポリ・バレエを経て、02年帰国。03年初のセルフ・プロデュース公演「ノマディック・プロジェクト」に対して、第3回朝日舞台芸術賞の舞台芸術賞、キリンダンスサポートをダブル受賞。国内だけでなく、ヨーテポリ・バレエ、ニュールンベルグ・バレエなど海外カンパニーからの作品委嘱も多い。<http://www.jokanamori.com>

高嶺格

美術作家。1968年鹿児島県生まれ。京都市立芸術大学漆工科卒。岐阜県立国際情報科学アカデミー(IAMAS)卒。93年から97年にかけて、ダムタイプのパフォーマーとして活躍。映像、パフォーマンス、滞在型のプロジェクトなど、様々なメディアを縦横に横断し、常に表現の領域を拡張する。同時に、イスラエルのバットシェバ・ダンスカンパニーや香港のダニエル・インに招聘されるなど、舞台作品のコラボレーションも多い。

金森穰とは、01年ネザーランド・ダンス・シアター委嘱・金森穰振付作品『Me/mento,4am"ne"siac』の映像を担当以来、2度目のコラボレーションとなる。

Noism04

りゅーとびあ新潟市民芸術文化会館のレジデンシャル・ダンス・カンパニーとして04年4月設立。金森穰を芸術監督とし、年に2作以上の新作公演を実施する予定。劇場が1年を通じて、所属ダンサーを抱え運営するシーズン制のヨーロッパスタイルは、日本では画期的な取り組みとして注目されている。オーディションで選ばれた10名のダンサーは、様々なバックボーンを持った個性派揃い。04年6月、カンパニー初作品『SHIKAKU』を、新潟・東京で上演、その実験的作品は、各方面から大きな反響を呼び、高い評価を得た。

Noism04

芸術監督：金森穰

ダンサー：青木尚哉／井関佐和子／木下佳子／佐藤菜美／島地保武／清家悠圭／高橋聡子／辻本知彦／平原慎太郎／松室美香

研修生：中野綾子

カンパニーマネージャー：須知聡子 satoko-suchi@nifty.com

<公演概要>

●山口公演

日時：2004年11月13日(土) 13:30開場 14:00開演

会場：山口情報芸術センター スタジオA

料金：A席4,000円 [エニー会員等割引3,500円]

B席(学生対象)2,000円

※公演終了後、アフタートークを行います。

チケット予約電話(10:00~19:00 火曜休館・祝日の場合は翌日)：083-920-6111

ローソンチケット：0570-063-006 Lコード：64920

主催／財団法人山口市文化振興財団

演出・振付／金森穰

美術・映像／高嶺格

衣裳／堂本教子

出演／Noism04メンバー

企画・製作／新潟市民芸術文化会館・山口情報芸術センター・宮崎県立芸術劇場

高知県立美術館・可児市文化創造センター・まつもと市民芸術館

企画協力／カンパセーション

協賛／麒麟ビール株式会社

*ワークショップも開催します

Noism04 ダンスワークショップ

日時：11月9日(火) ヒップホップクラス：14:00~ 講師：平原慎太郎

コンテンポラリークラス：19:00~ 講師：金森穰

共に約2時間

会場：山口情報芸術センター

対象：コンテンポラリークラスはダンス経験者のみ

締切／定員：10月31日必着／各20名 (応募者多数の場合は抽選)

参加費：500円

申込：葉書、FAX、e-mailにて、住所、氏名、年齢、電話番号・e-mail等連絡先、ダンス経験をご記入の上、YCAM Noism04ワークショップ係までお申し込みください。

申込／問い合わせ先：山口情報芸術センター 〒753-0075 山口市中園町7-7

TEL：083-901-2222 FAX：083-901-2216 e-mail：Noism04WS@ycam.jp

<山口公演／ワークショップに関するお問合せ>

山口情報芸術センター 広報担当：小滝、制作担当：岸・四元(よつもと)

〒753-0075 山口市中園町7-7 TEL：083-901-2222 FAX:083-901-2216

<http://www.ycam.jp/> e-mail：info@ycam.jp

<その他の公演会場>

●新潟公演

10月28日(木)・29日(金)19時開演 30日(土)14時開演 計3回公演

会場／りゅーとびあ 劇場

料金／全席指定5,000円(学生2,500円)

一般発売／9月3日(金)

お問い合わせ／新潟市民芸術文化会館 事業課 Tel：025-224-7000

主催／財団法人新潟市芸術文化振興財団

●大津公演

11月5日(金)19時開演 計1回公演

会場／びわ湖ホール 中ホール

料金／S席5,500円 A席4,000円(学生：S席3,000円 A席2,000円)

一般発売／8月28日(土)

お問い合わせ／新潟市民芸術文化会館 事業課 Tel：025-224-7000

主催／財団法人新潟市芸術文化振興財団

●宮崎公演

11月20日(土)19時開演 計1回公演

会場／宮崎県立芸術劇場 演劇ホール

料金／S席4,000円 A席3,000円 B席2,000円

(小学生～大学生対象：B席1,000円)

一般発売／8月5日(木)

主催／財団法人宮崎県立芸術劇場

●高知公演

11月27日(土)18時30分開演 計1回公演

会場／高知県立美術館ホール

料金／全席指定(前売)5,000円(当日)5,500円

一般発売／9月10日(金)

お問い合わせ／高知県立美術館 TEL：088-866-8000

主催／高知県立美術館(高知県文化財団)

●岐阜公演

12月4日(土)14時開演 計1回公演

会場／可児市文化創造センター 小劇場

料金／全席指定4,000円(18歳以下2,000円)

一般発売／9月18日(土)

お問い合わせ／可児市文化創造センター TEL：0574-60-3311

主催／財団法人可児市文化芸術振興財団

●東京公演

12月10日(金)19時開演・11日(土)・12日(日)14時開演 計3回公演

会場／新国立劇場 中劇場

料金／S席6,000円 A席4,500円

一般発売／10月10日(日)

お問い合わせ／新潟市民芸術文化会館 事業課 Tel：025-224-7000

主催／財団法人新潟市芸術文化振興財団

●長野公演

12月18日(土)

会場／まつもと市民芸術館

料金／未定

主催／財団法人松本市教育文化振興財団